文献番号	年	出所	内容	文献の種類	文献の性質	予後の重篤性
5-8-7	1990 (H2)	西岡久壽彌（日本赤十字社中央血液センター）「輸血後肝炎の予防」最新医学 1990; 45(12); 2341-2344	HCVAb陰性の急性肝炎は輸血後、散発性を問わずその80%が慢性化すること、HBs抗原陰性の慢性肝炎 262 例、肝硬変 159 例、原発性肝癌 105 例中それぞれ 76%、67%、76%がHCVAb陽性[1]であったことを記載し、さらに清澤らがretrospectiveな追跡調査により、輸血後に輸血後肝炎、HCVAb陽性、慢性肝炎、その活動化、肝硬変、原発性肝癌と進展した 21 症例を提示し、HCV感染と肝癌の病的因果関係を立証したと記載。	他	レ	●
5-8-8	1990 (H2)	Kiyosawa K（信州大学医学部内科） et al. Interrelationship of blood transfusion, non-A, non-B hepatitis and hepatocellular carcinoma: analysis by detection of antibody to hepatitis c virus. *Hepatology* 1990; 12(4Pt1); 671-675	非 A 非 B 輸血後肝炎患者 231 例（うち慢性肝炎 96 例、肝硬変 81 例、肝がん 54 例）について、C 型肝炎ウイルス抗体検査を行ったところ、慢性肝炎、肝硬変、肝がん例のそれぞれ 89.6%、86.4%、94.4%で抗体が検出されたこと、それらのうち輸血日が判明している例について、輸血から慢性肝炎、肝硬変、肝がんと診断されるまでの平均進展期間は、それぞれ 10 年、21.1 年、29 年であったことを記載。	原	症	●
5-8-9	1999 (H11)	Elizabeth Kenny-Walsh et al. Clinical outocomes after hepatitis C Infection from contaminated anti - D immune globulin. *the New England Journal of Medicine* 1999; 340; 1228-1233	アイルランドにおいて C 型肝炎ウイルスで汚染された可能性のを投与された可能性のある抗 D 免疫グロブリンを投与された可能性のある 62,667 例の女性をスクリーニングしたところ、704 例に HCV 感染の既往あるいは現病があったこと、うち 390 例が血清 HCV RNA 検査で陽性であったこと、このうち治療を受けた 376 例は 17 年間にわたって C 型肝炎に感染していたことを記載し、さらにこのうち肝生検を行った 363 例について調査したところ、356 例（98%）に炎症が見られ、軽度が 41%、中程度が 52%であり、186 例に繊維化の所見が見られたが、肝硬変はうち 7 例（2%）で確認されたもしくは疑われただけであり、そのうち 2 例はアルコールの過剰摂取が認められていたことなどを述べる。	他	原	○
5-8-10	2000 (H12)	Manfred Wiese et al. Low frequency of cirrhosis in a hepatitis C (genotype 1b) single-source outbreak in Germany: A 20-year multicenter study. *Hepatology* 2000; 32(1); 91-96	1978 年 8 月~1979 年 3 月の間にサブタイプ 1b の HCV で汚染された抗 D 免疫グロブリンを投与された 2,867 例の女性のうち、1,018 例をプロスペクティブに 20 年間追跡調査したところ、投与後 6 か月以内に 90%（917 例）が急性肝炎に罹患したこと、そのうち 85%が 20 年後も HCV 抗体検査で陽性であり、55%が HCV RNA 検査で陽性であったが、明らかな肝硬変は 4 例（0.4%）だけであったこと、罹患した女性のうち 44%で行った組織学検査の結果、軽度から中程度の肝炎が 96%、門脈の線維化が 47%、隔膜の線維化が 3%に見られたことを記載し、肝炎罹患以前は健康で若い女性が HCV(1b)に感染した場合、20 年以内に肝硬変に進展する危険性は低いと述べる。	他	原	○

[1] Ab は抗体のことであり、HCVHb は C 型肝炎ウイルス抗体のことである。HCVAb 陽性とは、体内に HCVAb が存在しているということであり、HCV が体内に存在している、もしくはかつて存在していたことを意味する。

文献番号	年	出所	内容	文献の種類	文献の性質	予後の重篤性
5-8-11	2002 (H14)	World Health Organization. Hepatitis C. (http://www.who.int/csr/disease/hepatitis/Hepc.pdf, accessed 06 January 2009)	C 型肝炎感染者のうち、40%は自然治癒するが、60%は慢性肝炎となり、そのうち 20%が肝硬変に進展し、さらに 20%が肝がんに進展すること、C 型肝炎感染者の 5%程度が死に至ること、世界の C 型肝炎感染者数は世界人口の 3%にあたる 1 億 7 千万人と見られていることなどを記載。	他	レ	●
5-8-12	2004 (H16)	DB. Strader et al. Diagnosis, management, and treatment of hepatitis C. *Hepatology* 2004; 39(4); 1147-1171	米国肝臓学会議（AASLD）による C 型肝炎の診断、治療等についてのガイドラインの紹介。米国での C 型肝炎感染者は 270 万人と見積もられていること、C 型肝炎感染者の 55~85%が慢性肝炎となり、そのうち 5~20%が 20~25 年を経て肝硬変に進展すること等を記載。	他	原	●
5-8-13	2006 (H18)	CL.Liu et al. Stability of hepatitis C virus RNA in various processing and storage conditions."*Zhongguo Shi Yan Xue Ye Xue Za Zhi* 2006; 14(6); 1238-1243	HCV RNA の安定性は抗凝固製剤によって異なること、血液収集過程における不活化が重要であること、HCV RNA は 4 度では 7 日間、室温では 3 日間は安定であること、凝固因子製剤中の HCV RNA は 3 度凍結-溶解操作を行っても安定であることなどを記載。	他	原	△
5-8-14	2007 (H19)	S. Kalimi et al. Infectivity of hepatitis C virus in plasma after drying and storing at room temperature. *Infect Control Hosp Epidemiol* 2007; 28(5); 519-524	乾燥血液の HCV の感染性は 4 日間で消失することなどを記載	他	原	△
5-8-15	2007 (H19)	日本肝臓学会 『慢性肝炎の治療ガイド〈2008〉』 文光堂; 2007.	C 型肝炎の壊死、炎症反応は B 型肝炎より軽度で、進行も緩徐である。C 型肝炎の予後は、病院受診者を対象とした研究と一般住民を対象とした研究で大きく異なる。Hospital-based study では HCV キャリアーは感染後平均 10 年、21 年、29 年で慢性肝炎、肝硬変、肝癌に進展した。Population-based study では、ほとんどが肝機能正常あるいは軽度異常に留まり、性、年齢を合致させた一般健常人の予後と差が無い。HCV キャリアーのうち最終的に肝疾患で死亡するのは 20%前後と推測される。肝硬変に進展すると肝細胞癌を合併する危険性が高くなり年間 5-8%で肝発癌が認められる。	学	レ	●